

亥の子(いんこ)行事について

東岐波ふるさと運動実行委員会
東岐波郷土誌研究会
東岐波公民館

亥の子(いんこ、いんこのちとも言う)とは何だろう・・・

亥の子とは・・・なぜ亥の子と呼ぶかははっきりしませんが、「亥」はいのしし(猪)に通じ、亥の子が家猪又は野猪を意味すると言われています。また、奈良県うだ郡では、亥子神(いのこがみ)を弁天様として、弁天様は10月(神無月)に出雲に行かないので、居残り神→いのこ神になったという説もあります。亥の子という呼び方は、西日本に広く分布しています。東日本では、とおかんや(十日夜)といって、10月10日に祝いの行事をしています。これは、内容的にはだいたい亥の子と同じと考えてよいでしょう。

亥の日の祝いとして、もちをついて食べたり、親類や近所の人に配りあうならわしがありました。もちろん亥の子をつく子どもたちにも、ごほうびに配っていました。もちを食べたり配ったりする行事は、中国から伝わってきたものですが、日本でも、約千年前から貴族の間で行われていたそうです。

亥の子の本来の目的ははっきりしませんが、日本ではちょうど稲の収穫期にあたるため収穫感謝祭の要素が多いようです。鳥取県では、春の亥の子(2月)に田に降りた神様が10月の亥の日には、仕事を終わって家に帰られるのでもとをついて祝う行事をします。これなどは、収穫感謝祭の一例といえるでしょう。

【亥の子の俗説あれこれ】

どうして家の門(かど)や田畑をワラボテでバタンバタン打つかという昔、仁田四郎にたいじされた野猪の亡霊がオンゴロモチすなわち、モグラとなって百姓を苦しめるのを防ぐために作ったのが始め(香川県)という説があります。東岐波地区でも、屋敷や田畑にトンネルを掘り、農作物に害を与えるモグラモチを退散させるためという話が伝わっています。しかし、お年寄りの話では、昔は東岐波にはモグラモチがいなかったが、阿知須と佐山の境にある土路石川が土橋になってから、モグラモチが出はじめて被害にあうようになった。しかし、それ以前に亥の子の行事は行われていたから、モグラモチと亥の子は関係ないのではないかという話も聞きました。

その他にも、いろいろ亥の子の話があると思います。みなさんは、おじいさんやおとうさんに聞いたり、本を調べたりしましょう。新しいことがわかったら、友だちに話してあげよう。

いつするのでしょうか・・・昔は、旧暦の10月(現在の11月頃)の亥の日に行っていました。亥の日が2回の年と3回の年がありました。

三番亥の子だけは祝いごとをしなかったそうです。

どこするのでしょうか・・・普通、各部落の家の門(家の表出入口、表門のこと)を順繰りに回って行っていました。他の地方では、田畑などでも行っていたようです。しかし、この日には大根畑に入らないしきりになっていました。

ワラボテのつくり方・・・亥の子行事に使うワラをたばね縄でまいたモノをワラボテと言います。別名、イノコスボ(徳島、大分県)、イノコバイ(兵庫県)とも呼ぶ地方もあります。

つくり方は、今年とれたワラを使います。まず、ワラをすいてアクタを取り除き、すぐりワラにします。そして、水吹きをしてヨコロでたたいて、少しやわらかくしておきます。打ちワラをたばにしてしんに竹を入れ、縄で固くぐるぐる縮めてまけばできあがりです。なお、とっては鬼の金棒のように丸く仕上げます。

亥の子いろいろ・・・亥の子遊びには、石突きとワラボテの2種類あります。石突きは、石に多くの縄をつけて子どもが縄を引っぱったり、ゆるめたりして、石を持ち上げ落とす方法であり、ワラボテで地面をつくとバタンバタンという音がします。ワラボテの大きさ、縄の締めくあい音がいろいろ変わってきます。

さあ みんなで、亥の子の歌を歌いましょう♪♪♪

亥の子歌(その1)

歌のはじめは ヤハーエー

アラやっこせーよーいやなー

一には京都の清水さまよ よーいとーこなー

二には二宮尊徳先生 よーいとーこなー

三には讃岐の金比羅さまよ よーいとーこなー

四には信濃の善光寺さまよ よーいとーこなー

五つ出雲の大社さまよ よーいとーこなー

六つ昔の人丸(人麿)さまよ よーいとーこなー

七つ奈良の大仏さまよ よーいとーこなー

八つやわたの八幡さまよ よーいとーこなー

九つ高野の弘法大師 よーいとーこなー

十で所の氏神さまよ よーいとーこなー

(付) 松前殿様 ニシンの茶づけ よーいとーこなー

竹に雀は品よくとまる よーいとーこなー

娘十七八は蝶々がとまる よーいとーこなー

亥の子歌(その2)

亥の子餅をついて つかんといいて 食わせんものは

兎を生め 蛇を生め 角の生えた子を生め

★★亥の子行事から学ぶこと★★

今回、亥の子を再び世に出す目的は、ただ民俗行事のほり起しと継承だけではありません。この亥の子行事は、自然を愛すること、生活きばんである農事の喜びと悲しみ、収穫の祝いと感謝がこめられた農村の人たちの集いの場であったことはいまでもありません。しかし、それだけではなく、もっと大切なことは、亥の子行事をとおして、だいたい年長者が年少者に亥の子歌やワラボテ作り、行事のいろいろな決まりごとなどを教えてきたのはもちろん、礼儀作法や生活をとおして経験して得た知恵や仲間意識をうえつけてきたことです。

遊びを忘れ、ひとりぼっちの現在の子どもに再び仲間づくりを進め、いろいろ遊びを教える中に、人として守らなければならない決まり、しつけなどを学びとってほしい気持ちで、私たちは亥の子行事の継承を願っているのです。